

70年後に台北大空襲を思う

杜祖遜

毎年5月31日の子と私は日記帳に「今日は台北大空襲の――週年の日である」と書く。

この空襲はそれほど私に多大の印象を与えた。

今年はその70週年にあたるので、その時の状況と思い出しながら再現し、且つアメリカのB-52爆撃機と操縦して台北大爆撃と敢行した米軍操縦士 Robert A. Morgan 氏の回顧談と手紙した。これでは地上にいる我々、空から攻撃した米軍空軍の特攻の姿とまじめたので、台北大空襲の立体的歴史像をふりかえることができた。

まず地面にいた私の観念を述べよう。

1. 1945年5月31日台北大空襲の思い出

台北の初めて米軍の空襲を受けたのは1944年10月10日、11日、12日アメリカの航空母艦から発して台湾に爆撃に来た飛行機であり、それと比較的小さい飛行機で主に軍事施設を爆撃した。米軍がフィリッピンを佔領すると

松山飛行場や淡水の水上市飛行機場等が占領された。

・フイリツコンの米軍基地から台湾の西部~~部~~から空襲^{と始め}された。米軍の記録で見ると岡山、高雄、嘉義、台南、新竹、花蓮港、蘇澳爆撃の記録が次山でとくる。ここでは1945年(昭和20年)5月31日の台北大空襲の手だけ⁵に限定する。

当時私達は地投に疎開していた。父は台北帝大医学部が大空襲に疎開していたのが不在だった。5月31日という台湾はもう夏で暑い日、その日は晴れだった。母と弟は朝早くから台北に行った。地投の疎開地を借りた一室は私一人だけだった。

朝10時頃警式警報のサイレンが鳴った。それでおかしくなった。「台湾防衛司令部発表、敵機多数バシ海峡と北上中なり」¹⁵
10-15分頃に「敵機爆撃機の編隊と戦闘機台湾海峡と北上中なり」と報せらる。朝の11時頃空襲警報のサイレンがとぶるわせると同時に今まで聞いた手の子い爆音でおかしくなり力の飛行機だと感威した。庭に出て見ると何²⁰

と見たことのないへんちくりんな飛行機に驚いた。何と明瞭か二つあるではないか。今からわかるので、みよか、これはロッキード社製のP-38で、英語で Lightning P-38 とも言う。その名の如く、ほんとうにスピードが早く、電光のまうた。北投の上空をすばい、爆音で低空を飛んでいった。(写真1)

私は早速鉄カブトと双眼鏡を持って、附近の岡に登って台北の方を見た。淡水の方から B-25 の大編隊が秩序正しく、^{4000メートルの高さで}1つかり編隊と組んで台北の方に向った。飛行機はギョラールミソで作られたもので、折からのまぶしい太陽の光を反射するもので、爆撃機が鏡が光を反射するまうにキラキラする。やがて台北の上空にくると爆弾を落しはじめた。北投にいて、^{かがみ}ので爆弾が落ちるのは見えなかつた。地上に着くと破裂して台北は黒い爆煙で包まれ、町全体が見えなくなつた。それと同時にすばい爆音と地震のようにな投の岡の地面が揺れた。私は双眼鏡で台北の方を見たが、すばい

い雲でかいさつていさので、何も見えない。
 それで肉眼で観望した。(写真2)



上空と見ると高射砲の包弾がホーンホーンと破裂
 音があるが、B-52編隊の上、下、横、前、後で
 白い煙を出しているから破裂音があるか、ちっとも当
 らない。爆弾の破裂音は猛烈な音であるが、
 高射砲弾の破裂音はそれとくらへると小さく
 あるが、火花が爆発するような音であった。

B-52の編隊は前から後へと繞って台北の上
 空に飛来しては又爆弾を落とす。又地面がゆれ、台
 北の方には更に黒煙の色が飛来する。

B-52の音に白い群弾 (Phosphorus anti-craft
 shell) が爆発する。リン弾は円錐形に爆発
 するので、その円錐の中に飛行機が入れれば落
 せるわけである。日本軍も高射砲弾だけである

普通の

く新兵器のリン弾を使ったので、リン弾が破
 裂するのは私は台北の上空で実際に見たが、
 日本軍のリン弾破裂の写実はないので、アメリカ
 軍の高射砲のリン砲弾の炸裂の写実を入れた

水たからこ水を考思されたい。

写頁3

2. 煤撃直後の台北に行く

母と弟が朝から台北に行つて、台北の大煤撃で無事かどうかわからずい。空は日大体又
 時半頃に終つた。それで午後の3時頃早速台北
 に行つた。地投の間からみた台北は一面黒
 煙に包まれ、^{数回}~~5回~~ 煤の大煤撃でととも叩きみ
 こみけるかと思つた。先ず台北で莫先に行
 つた所は台北帝大医学部の薬理学教室であつた。¹⁰
 母はそこに行く可能性が一番大いと思つ
 た。医学部にくると、薬理の隣の解剖学教室
 全体が煤撃でぶつとんで潰れてしまつた。薬
 理の建物はしつかり建ててあるのを一安心
 した。中に入つてみると硝子は皆木っけの
 人に破かれ、^{家の}

到る所にガラスの破片が散らばつてゐる。建
 物全体が壊れてしまつたが、人影一人も見えない。
 母や弟は何処に行つたのであろうか。薬理学
 の建物が健在なら、母と弟は大丈夫かもし水²⁰

な」と思った。

私と12はこれから何処に行つていいかわ
 からないけれど、とにかく城内を歩いてみよう
 と思つて、医学部から城内の方に向つて歩い
 た。大学病院に来ると前面の右側の建物が爆
 撃で半分位壊れされてゐる。ここは精神病科
 である。患者さんもお山死んだらうと思つ
 た。続いて歩くと新公園に来た。城内の人は
 場所がないので防空壕と新公園の中に行つて
 いた。1トンの爆弾が公園の中に何発も落ち、
 それで直径5米の水たまりになつてゐる。地
 下水で爆弾の破片はくぼみに水がたまり池
 になつてゐる。それが何個もある。これは
 多くの人が死したに違いないと思つた。防
 空壕は紋かともない。直撃で防空壕にいた人
 は皆即死したと思う。 **写真4**

城内を歩いてみると、人影一人も見当た
 らず、ストリートは爆弾の破片で散らかつて
 いる。台湾銀行の所に来ると二階のフロ
 アがそのまゝ地下に落ちてゐる。ちやうど中

5

10

15

ゆか

20

きのこを見てびっくり、12のは、~~床~~ 倉全体に
 紙幣が散らばっている。こんなに多くのお札
 とお札のは初めてでびっくり。早くここを去ら
 ないと行かない。お金の強奪と誤解されたら
 の場で銃殺されたら大へんと思つて、お札一⁵(札)
 枚も捨てるに出た。

銀行の隣の総督府の所に来た。建物全体が
 火事でホーッとカフトカというふうな音を立て
 て燃えている。建物の方から熱風が送られ、
 焼いている。

怖いといふ私の^頭が熱と感ずる。危い熱風で
 焼けど又は殺されるかも知れない、早く逃がら
 べさだと思つて総督府を離れ去る。夕方北投に
 帰つたら母と弟がいたので母と一言心した。

母は某地散置の階段の下の向き向に隠れて
 いたそうで、爆弾の破裂、建物全体が揺るえ
 、ガラスの割れる音、生きた気持ちになつた
 そうである。母も弟も無事で私は神様に心か
 ら感謝した。(写真5A, B)

3. 台北大空襲の1日後

6月1日大空襲の翌日私は台北に行き被害
 の状況を見に行つた。新公田の所に来た。昨
 日は人一人も見なかったのだが、今日は大勢
 の人が^{くわ}銃と^{スモーク}か(シヤベル)を持って振り廻してい
 る。振り廻している人が顔のぼくらんで顔も印が
 んだ人を見て「これは---さんではないか、
 と隣の人に言っている。「そうかよこの方は
 総督府の---課の---さんだよ」とい
 っている。昨日も今日も焚火で、たつた一日で人
 体は腐敗しはじめであり、人の腐敗で死体特
 殊のにはほいがある。かの中で新公田で即死し
 た被害者の異状と祈り、台湾銀行に来た。意
 兵が立つて散乱した紙幣と別な人が拾ひ集め
 ている。昨日は紙幣が床一杯に厚さ5⁶cm位
 で広がっていた。恐らく台湾中のお金の大部
 分がここにころがっていたのだと思う。私は
 昨日拾わぬでいい事をしたと思つた。

総督府の前を運るとまたばりばり燃えている。
 建物はコンクリートと煉瓦なのに何故こ

人々に燃えるのかと思つた。恐らく各部屋
にある書架や机や椅子が燃えていたのだと思
ふ。

写真6



4. 台湾での噂

終戦後台湾人の間で5月31日の大空襲でとい
う12城内、総督府の附近だけがやられたのか。
万草や大稲程はやられていない。こんな
正確に爆撃できたのは、台北に詳しい人でな
いといけない。恐らくこの人は元台北高校の
米人の英語教師 George Kerr, カールさんとい
うかと思ふようになった。台北高校でや
られたくない。これは彼が教えた空技である
からと噂する台湾人がある。台北一中がや
られたのはカール先生が台北一中に兼任で教
えた時に、ある日本人の先生に言われたとい
ふ。そのうらみのお返しに爆撃したという。爆撃
の被害の状況からみるとこの噂にも一理ある
ように思える。しかし私はそうではないと思ふ。

4000 m 上空で ^{数百}500機の海軍攻撃機である。月

5

10

15

20

標は公認總督府である。之れで爆弾はその周
 圍に落さるゝのは当然である。台北帝大医学部
 、新公園、城内、台湾軍司令部、台北一中、
 鉄道ホテル皆總督府の近くにあるためだつた
 と思ふ。

5. カール先生に会う

私がカール先生に会つたのは1945年(昭和
 20年)の8月20日頃であつた。大正町三条
 の家の前に車が一台止まり、了アメリカの
 海軍特技が玄関に来て「お父さん、おら水ま
 おか」と言う。その日本語の流暢なために驚
 いた。又1週間前迄は息子がアメリカと新南、
 ういふで言うといふ敵國のアメリカの特技が
 目の前で笑顔で立つてゐる。これも息子がメ
 リカ人とは思へない。私は父は留守で可と地
 事したら、カール先生は「それは残念ではな
 い。少いで可い」といふお父さんにお渡し下さい。
 お父さんに「よろしく」と言つて子ヨコレポート
 と了アメリカ製のタバコとおみやげとして送ら